

CASBEE® 名古屋 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム 名古屋版 (2016年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|---------------------------|--------|-----------------|
| 建物名称 | (仮称)プレサンスレジデンス新道一丁目(1905) | 階数 | 地上15F |
| 建設地 | 名古屋市西区新道一丁目1905番 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 商業地域、近隣商業地域、準防火地域 | 平均居住人員 | 240 人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 8,760 時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 集合住宅 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2024年9月 予定 | 評価の実施日 | 2023年2月13日 |
| 敷地面積 | 960 m ² | 作成者 | |
| 建築面積 | 416 m ² | 確認日 | 2023年2月13日 |
| 延床面積 | 4,623 m ² | 確認者 | |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE

★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★★ B:★★★★★ C

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆:☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:☆☆☆☆☆☆ 30%

標準計算

- ① 参照値: 100%
- ② 建築物の取組み: 79%
- ③ 上記+②以外の: 79%
- ④ 上記+オフサイト手法: 79%

0 46 92 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.0

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|--------------|--------------------------|---------------------------------------|
| 総合 | 防犯面、環境面に配慮したつくりとなっている。 | その他 なし。 |
| Q1 室内環境 | F☆☆☆☆を使用し、汚染物質発生に配慮している。 | Q3 室外環境(敷地内) 防犯カメラを設置し、防犯性に配慮している。 |
| Q2 サービス性能 | 部品部材の耐用年数が十分な精度が確保されている。 | |
| LR1 エネルギー | 全住戸外気に2方向以上面した計画としている。 | LR3 敷地外環境 適切な量の駐輪スペースを確保している。 |
| LR2 資源・マテリアル | リサイクル材の使用に心がけている。 | |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)アレススロジエ新道一丁目(1905)

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

| 重点項目 | | 評価 | 全体に対する 重み係数 | 重点項目 スコア |
|-----------------|-----------------|---------------|----------------|-------------|
| 1. 温暖化対策 | | | | 3.9 |
| LR1 | エネルギー | 4.2 | 0.4 | |
| LR3.1 | 地球温暖化への配慮 | 3.8 | 0.1 | |
| LR3.2.2 | 温熱環境悪化の改善 | 2.0 | 0.05 | |
| 2. 自然共生 | | | | 1.9 |
| Q3.1 | 生物環境の保全と創出 | 2.0 | 0.09 | |
| Q3.3.1 | 地域性への配慮、快適性の向上 | 地域性のある材料の使用※1 | 無 | 0.009 |
| Q3.2 | まちなみ・景観への配慮 | | | |
| Q3.3.2 | 敷地内温熱環境の向上 | 2.0 | 0.045 | |
| 3. 循環型社会 | | | | 3.2 |
| LR2.1 | 水資源保護 | 3.4 | 0.06 | |
| LR2.2 | 非再生性資源の使用量削減 | 3.2 | 0.18 | |
| LR3.2.3 | 地域インフラへの負荷抑制 ※2 | 3.0 | 0.01875 | |

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.9



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.2



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。